

令和 6 年 度

事業 報告 書

公益財団法人かずさDNA研究所

令和 6 年度 事業 報告 書

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 3 1 日)

I 基本方針

令和 6 年度は、第 6 期中期経営計画の 2 年目として、「先端的な研究成果・技術を活用した社会実装の推進」、「先端的な研究開発の推進」、「広報・理科教育支援の推進」、「自立型経営の強化」を基本的方針とし、事業を推進した。

「先端的な研究成果・技術を活用した社会実装の推進」として、開所当初から実施してきたヒト遺伝子研究の延長上に位置づけられる難病の遺伝学的検査は、平成 29 年 7 月に衛生検査所の登録を受け、千葉大学医学部附属病院、千葉県こども病院など県内だけでなく、全国の 800 を超える医療機関等から難病の遺伝学的検査を受け入れてきた。その結果、わが国の難病領域の遺伝学的検査に不可欠の施設となった。また、植物ゲノム研究の成果や関連技術の実用例である DNA マーカーを利用した各種農作物の種子純度検査については、国内主要種苗検査会社からさまざまな作物種子の大規模検査を受託し、農業生産現場への高品質な種子の安定供給を行った。

また、生体内物質の高精度計測技術による生体や食品等の成分分析、種苗会社向けの農作物の先端的ゲノム育種サポート、ヒト由来遺伝子資源の有償提供、DNA 解析関連機器や電子計算機システムを活用したゲノム・遺伝子構造解析など、ゲノム解析技術の幅広い産業分野での社会実装に向けた研究開発支援を行った。さらに、網羅的なタンパク質解析による診断・創薬への取組も強化した。

「先端的な研究開発の推進」として、基礎的研究のうち社会的重要性が高まることが期待されるゲノム関連研究領域や新規技術開発、先端的かつ挑戦的なプロジェクトを柔軟に取り入れ、多様性に富む研究シーズの育成に努めた。

「広報・理科教育支援の推進」として、増加傾向にある理科教育支援については、千葉の未来を支える子供達が最先端の科学教育に触れ、理科に対する関心・理解が高まるよう県教育委員会と連携強化を図りながら幅広く展開した。

「自立型経営の強化」として、DNA 研究所が蓄積してきた膨大な遺伝子資源やその開発過程で得られた高度な DNA 解析技術及び成分分析等を民間企業等に提供を行い、産業支援の役割を果たしながら自立型経営の強化に向けて、財源の確保に努めた。

Ⅱ 実施計画

1 先端的な研究成果・技術を活用した社会実装の推進

(1) 医療への貢献

①ヒト疾患遺伝子検査

難病の遺伝学的検査は、医療現場と患者からの強い要望があるにも関わらず、採算性の低さから必要とされる検査が既存の検査会社からは社会に提供されてこなかった。加えて、改正医療法の施行によって大学等の臨床研究が診断目的としては利用できないという閉塞状態が存在していたが、本研究所では2017年から試験的に登録衛生検査所を立ち上げ、更なる要望に応じるため継続的改善を行い、現在では、わが国のDNAシーケンシングによる難病の遺伝学的検査を実施する施設として広く認知されるに至った。今年度もこの活動を維持・継続することで、かずさDNA研究所に蓄積されたヒト遺伝子研究の成果を社会還元した。加えて、令和2年度、令和4年度及び令和6年度の保険収載の改訂に伴う疾患の増加にも対応し、千葉県内外の医療機関とのネットワークを強化することで臨床的遺伝学的検査の提供規模を更に拡大し、より多くの臨床診断に貢献した。

②新生児スクリーニング

これまで実施してきた新生児スクリーニングが将来的に自治体事業になる可能性が高まったことを踏まえて、ちば県民保健予防財団に従来の新生児スクリーニング技術を移転した。その代わりに、次世代の新生児スクリーニングとなる可能性をもつプロテオーム解析を活用した新規な方法を開発し、実証研究を進めた。

③千葉県がんセンター等との連携強化

千葉県がんセンター、千葉県こども病院、千葉大学医学部附属病院、ちば県民保健予防財団など県内の医療機関との連携を深め、各々の専門性を生かした分業体制のもと、協働して千葉県におけるゲノム医療の実現に向けた活動を展開した。

④新型コロナウイルス感染症の予防及び治療法開発

DNA研究所がこれまでに蓄積した遺伝子解析や、タンパク質解析に関する高度な技術や知見を活かし、感染症の重症化予測のためのマーカー探索などの取組を臨床研究として継続した。

(2) 農業への貢献

①育種プロセスの加速に向けた最先端DNA解析技術の導入支援

民間種苗会社や地域の公的研究機関に対して、開所以来蓄積してきたDNAマーカー関連解析技術や情報を活用したサービスを提供することによって、国内種苗産業の国際的競争力の強化と農業の活性化に貢献した。

②農業用の高品質種子の安定供給と品種保護に向けた検査・鑑定サービスの提供

DNAマーカー関連技術等を活用して、最適な検査技術・サービスを提供するこ

とで、高品質種子の安定供給の実現を図るとともに、品種の育成者権の保護にも貢献した。

③千葉県農林総合研究センターとの連携

様々な育種素材や育種・栽培技術を有する千葉県農林総合研究センターに対して、先端的なDNA解析技術を提供する全国でもユニークな連携を継続し、画期的な新品種の育成を目指すとともに、環境に配慮した農業の普及にも貢献した。

(3) 環境問題への貢献

①DNA解析による生物多様性のモニタリング

近年の技術開発によって、対象生物を捕獲することなく土壌、水、糞便から抽出したDNA分析をすることで、生息する生物種を特定し、最新の検出技術を導入整備し、DNAによる各種環境評価事業を実施した。また、魚類以外の生物種分布調査の可能性の模索や、環境モニタリングの社会実装への基盤を構築するための研究も進めた。

(4) 産業界・アカデミア等との連携

①民間企業、大学、公的研究機関への技術支援

これまで培ってきたゲノム関連分析技術、遺伝子発現解析、蛋白質解析、代謝物解析を活用した技術支援を継続して行った。さらに、1つのサンプルを起点にして複数のオミックス解析を同時に行うマルチオミックス解析を活用した技術支援を積極的に周知して実施した。

②Greater Tokyo Bio community による活動の展開

令和4年度、内閣府において認定された Greater Tokyo Bio community（以下、「GTB」という。）にDNA研究所を含む「千葉・かずさエリア」が東京圏のイノベーション拠点の1つとして認定されたことを受け、同推進拠点として認定された柏の葉エリアや、大学、研究機関、インキュベーション施設等と連携し、バイオコミュニティの形成に向けた取組を進めた。

③バイオ関連産業の振興に向けた千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議の運営

バイオ関連分野の新たな産業や事業の創出を支援するため、千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議の事務局を県とともに担い、会員等のニーズに応じたセミナーや交流会を開催し、産学官交流の場を提供することによって、共同研究等促進のためのシーズ発掘や情報発信に努めた。また、GTB協議会等の他のネットワーク組織に参画し、大学、インキュベーション施設、公設試験場、千葉県等との連携を進め、共同研究等のためのシーズ発掘やマッチングを促進した。

2 先端的な研究開発の推進

(1) 基礎・応用基盤研究及び技術開発の強化

基礎的研究のうち社会的重要性が高まることが期待できるゲノム関連研究領域や新規技術開発、先端のかつ挑戦的なプロジェクトを柔軟に取り入れ、多様性に富む研究シーズの育成に努めた。特に、網羅的なタンパク質解析を駆使した新規診断技術ツールの開発に取り組んだ。

(2) 植物ゲノム基盤研究と産業支援のための関連技術開発

主要プロジェクトである植物ゲノム構造解析を更に多様な植物に展開し、有用ゲノム情報の収集を継続した。

また、ゲノム配列変異の高精度な検出と統計学、遺伝学、電子計算機によるモデル構築技術を融合させることで、世界最先端のゲノム育種技術の開発に努めた。

(3) 疾病遺伝子研究

ゲノム医療実現のため、千葉大学未来医療教育研究機構、千葉県がんセンターなどとの連携研究を加速し、難治性疾患やがんの克服に向けた先端的な研究を押し進めた。

3 広報・理科教育支援の推進

(1) 情報発信の強化

研究開発の成果を学会や産業界に向けて広く発信するため、学会誌への研究論文の投稿や国内外の学会集会での発表を実施した。

一般向けには、最新の研究開発の成果について、プレスリリースを積極的に行っていくほか、ホームページやFacebook、XなどのSNSを通じて活動情報をリアルタイムで公開した。更にDNA研究所の研究開発の成果や世界のDNA研究の動向、DNA研究所で行う各種イベントなどを分かりやすく紹介するニュースレターを年4回発行するとともに、DNA研究所のマスコットキャラクターなどを最大限に活用し、研究所のPR活動を推進した。

○開所記念講演会

開催日 10月26日(土) 13:45～16:00

会場 かずさアカデミアホール メインホール

参加者数 555名 (Web配信による参加51名、見逃し配信84を含む)

○一般の方を対象とした「科学イベント」

参加者数 1,927名

(2) 理科教育支援の強化

千葉の未来を支える子供達が最先端の科学技術に触れ、理科に対する関心・理解が高まるよう、県教育委員会とも連携強化を図りながら、小学生向け体験教育から、理系高校生向けの高度な実践的教育まで幅広く展開し、高等学校が自発的に決めた研究テーマに対する部活動支援活動として、千葉県立木更津高等学校に対し行った。また、対面での教育活動に加え、オンライン配信等のデジタル技術も積極的に取り入れることで効率化と多様化を図り、県内外に活動を広げた。

- 小学生から一般の方までを対象にした「DNA出前講座」(通年)

参加者数 1, 602名

- 中学校や高校を対象とした「DNA実験宅配便」(通年)

参加者数 2, 623名

- 千葉県内の中学生・高校生を対象としたかずさの森のDNA教室

開催日 3月25日(火) 10:00~15:45

会場 かずさDNA研究所

参加者数 27名

(3) 人材育成の強化

未来を担う子供達への教育支援と我が国のゲノム科学や生命科学に関わる人材育成の2つの観点から千葉県内の高校及び全国のSSH指定校・経験校の高校生グループが自発的に決めた研究テーマに対する活動支援や当研究所で実施するDNAキャンプに参加する高校生に対する活動支援を実施した。

(4) DNA Research

DNA研究所の存在を国内外にアピールするとともに、DNAやゲノム研究の情報のハブを国内外の関連コミュニティーに提供するためDNA Researchを発行し、国内外自然科学専門誌の中で高いレベルの維持に努めた。2023年のインパクトファクター(雑誌の引用頻度を示す指標)は3.900で「遺伝学と遺伝」に関連する国内自然科学専門誌の中で最も高いレベルを維持し、学界における研究所のプレゼンスと評価の向上に役立てた。

4 自立型経営の強化

(1) 財源の確保

ア バイオ産業技術支援センターの産業支援

DNA研究所が蓄積してきた膨大な遺伝子資源やその開発過程で得られた高度なDNA解析技術及び成分分析技術等を民間企業等に提供することで、研究開発技術支援を実施した。この目的達成のために、ホームページや学会等への出展により本産業技術支援活動のPR活動を行った。

また、企業や公的研究機関のニーズに応えるため、現場ニーズの把握に努め、最先端の幅広い分析技術を整備し、サービスメニューの見直しを行うとともに、財源の確保に努めた。

イ 競争的外部資金の獲得

競争的外部資金は省庁等の資金配分主体が広く研究開発課題等を募り、複数の専門家の評価に基づいて競争的に選抜し、研究者等に配分される研究資金である。

競争的外部資金の獲得は、DNA研究所の研究ポテンシャルを高い水準で維持・確保させる効果があるとともに、財源の確保の点においても重要であることから、引き続き、千葉大学や千葉県がんセンターをはじめとする他の研究機関と共同で、競争的外部資金の申請・獲得に努めた。なお、前年度からの継続も含めて、以下49件の科学研究費助成事業を実施した。

- ・ 学術変革領域研究(A)/横断的ゲノム比較から俯瞰する両性花多様性の変遷
- ・ 学術変革領域研究(A)/T細胞が認識する肥満特有の自己指向性免疫の解明
- ・ 基盤研究(B)/リンパ球系譜のROR γ t多機能性を司る脂質経路の解明
- ・ 基盤研究(B)/作物の機能的SNP情報の整備および有用遺伝子同定への利用
- ・ 基盤研究(B)/細胞内発現タンパク質全貌解析のための真プロテオーム解析システムの開発
- ・ 基盤研究(C)/新規部位特異的組み換え酵素の認識サイトの同定とゲノムエンジニアリングツールの開発
- ・ 基盤研究(C)/自動塩基変異導入機構とヒト人工染色体を用いたCHO細胞での抗体作製法の開発
- ・ 基盤研究(C)/セマンティックウェブ技術を用いた植物の系統・生育環境・表現型データベース
- ・ 基盤研究(C)/乾燥ろ紙を用いた疾患原因蛋白質の網羅的自動抽出法の開発
- ・ 挑戦的研究(萌芽)/AlphaFold2によるタンパク質立体構造変異情報を駆使した育種・進化研究の新展開
- ・ 挑戦的研究(萌芽)/脂肪滴 fate-mapping マウスを用いた病原性T前駆細胞の同定
- ・ 若手研究/ザゼンソウの発熱形質が遺伝的多様性に与える影響の解明
- ・ 若手研究/CENP-B 酸性領域が作り出すクロマチン構造の解明と新型合成転写制御因子への応用
- ・ 若手研究/「免疫－脂質代謝－ウイルス」を軸とした抗ウイルス免疫応答の新規制御法開発
- ・ 若手研究/レアメタル吸着能を有する好酸性微細藻類の探索と生物機能の解明
- ・ 若手研究/サツマイモ由来新規ファイトアレキシン候補化合物群の生成メカニズムの解明
- ・ 学術変革領域研究(支援)/先端ゲノム解析研究プラットフォーム
- ・ 学術変革領域研究(A)/植物の挑戦的な繁殖適応戦略を駆使する両性花とその可

塑性を支えるゲノム動態

- ・ 学術変革領域研究(A)/「植物気候フィードバック」の推進支援活動-1
- ・ 学術変革領域研究(A)/「植物気候フィードバック」の推進支援活動-2
- ・ 学術変革領域研究(A)/植物フェノロジーを支配する遺伝子制御機構-1
- ・ 学術変革領域研究(A)/植物フェノロジーを支配する遺伝子制御機構-2
- ・ 学術変革領域研究(B)/老化時計のリバイバル機構の解明に向けたマルチオミクス解析法の開発と応用
- ・ 基盤研究(A)/ムギ類種子休眠性の精密制御と分子育種法の確立
- ・ 基盤研究(B)/AIを用い成人末梢血シングルセルデータを参照した小児SLEの免疫遺伝学的特性の解明-1
- ・ 基盤研究(B)/AIを用い成人末梢血シングルセルデータを参照した小児SLEの免疫遺伝学的特性の解明-2
- ・ 基盤研究(B)/トウガラシの種間雑種において自己免疫過剰を引き起こす細胞質側トリガーの特定
- ・ 基盤研究(B)/都市植物における急速な高温適応の解明-1
- ・ 基盤研究(B)/都市植物における急速な高温適応の解明-2
- ・ 基盤研究(B)/植物の熱産生を誘発する環境シグナル受容・伝達機構と適応進化プロセスの解明
- ・ 基盤研究(B)/1本鎖DNA/RNA選択的解析によるCOVID-19を含む感染症検査の広範な改良
- ・ 基盤研究(B)/癌ウイルスによるクロマチン構造破綻が誘導する新規発がん機構の解明
- ・ 基盤研究(B)/ウイルスに対する易感染症に着目した原発性免疫不全症の原因病態解明
- ・ 基盤研究(B)/アレル系譜とマルチオミクスデータに基づいたカンキツの新規成分育種法の開発
- ・ 基盤研究(B)/ウンシュウミカン品種群成立におけるゲノム構造変異の解明
- ・ 基盤研究(B)/変異系統を用いたカラマツ雄花着花の原因遺伝子の特定とその発現制御機構の解明
- ・ 基盤研究(B)/認知症死後脳のハイブリットオミクス解析による認知症発症起源と疾患構造動態の解明
- ・ 基盤研究(C)/ネコブセンチュウゲノムの可能性とサツマイモ病原性レースとの関連
- ・ 基盤研究(C)/種子をまいて1年で開花するサクラの幼樹開花原因遺伝子の解明とその果樹育種への応用
- ・ 基盤研究(C)/高深度プロテオーム解析による悪性黒色腫血中腫瘍マーカーの探索と臨床応用
- ・ 基盤研究(C)/家族集積性を考慮した全エクソームとプロテオーム解析による真の

遺伝性高血圧症の探索

- ・ 基盤研究(C)/増殖因子の徐放化と生分解性鋳型を用いた同所性生体組織形成による一期生食道再生
- ・ 基盤研究(C)/CD37 発現と網羅的リピドミクス解析による濾胞性リンパ腫増悪予測指標の開発
- ・ 挑戦的研究(萌芽)/作物・雑草の分子横断解析から迫るセーフナーによる除草剤選択性向上機構の解明
- ・ 挑戦的研究(開拓)/腸内細菌トランスオミクス解析を用いた小児疾患のトランスレーショナルリサーチ
- ・ 国際共同研究加速資金基盤研究(B)/原発性免疫不全症の診断困難例に対するロングリードシーケンス解析
- ・ 国際共同研究加速資金基盤研究(B)/プロテオフォームの包括的解析を可能にする高深度トップダウンプロテオミクス法の開発-1
- ・ 国際共同研究加速資金基盤研究(B)/プロテオフォームの包括的解析を可能にする高深度トップダウンプロテオミクス法の開発-2
- ・ 難治性疾患政策研究事業/自己炎症性疾患とその類縁疾患における移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究

更に他省庁等についても前年度からの継続を含めて、以下48事業を実施するとともに競争的資金の新規獲得に努めた。

- ・ 共創の場形支援プログラム(COI-NEXT)【共創分野(育成型)】/災害など危機的状況から住民を守るレジリエントな広域連携医療拠点(JST)
- ・ 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)【共創分野】/Big-DigitalTransformation(バイオDX)産学共創拠点にかかる公益財団法人かずさDNA研究所による研究開発(JST)
- ・ みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進/みどりの品種開発加速化プロジェクト/(農林水産省)
- ・ 革新的GX技術創出事業(Gtex)/代謝フラックス制御法開発のための代謝開発(JST)
- ・ 未来社会創造事業(探索加速型)/「地球規模課題である低炭素社会の実現」「ゲノムチェンジングテクノロジー」による低炭素社会の実現/窒素固定共生のリコンストラクション(JST)
- ・ 研究成果展開事業産学共創プラットフォーム共同推進プログラム/薬用植物における難解なゲノムの解析技術および統計モデルを用いた高速育種法の確立/米由来の新規機能性食品食材の開発(JST)
- ・ 創造的研究支援事業(脂質代謝による病原性T細胞系譜の追跡と革新的治療法の創出)/脂質代謝による病原性T細胞系譜の追跡と革新的治療法の創出(JST)

- ・研究成果展開事業共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) ネイチャーポジティブ
発展社会実現拠点 (J S T)
- ・令和6年度日本学術振興会外国人研究者再招へい事業/Walid Mohamed EL-RODANY
研究員受入れ/日本学術振興会
- ・医療研究開発事業補助金(生命科学・創薬研究支援基盤事業(BINDS)/疾患モデル
マウスの作製とゲノムエンジニアリング技術の開発(日本医療研究開発機構【AM
ED】)
- ・革新的先端研究開発支援事業(AMED-CREST)/時空間マルチサンプリング検体の単
一細胞解析によるヒト免疫療法の基盤となる免疫記憶の解明(AMED-慶應義塾
大学)
- ・AMED-CREST(革新的先端研究開発支援事業)・「根本的な老化メカニズムの理解と破
綻に伴う疾患機序解明」研究開発領域/ミトコンドリア恒常性と細胞・臓器・個体
老化の関連解明(AMED-熊本大学)
- ・難治性疾患実用化研究事業/乾燥ろ紙血プロテオーム解析を用いた原発性免疫不
全症診断の効率化研究(AMED-京都大学)
- ・難治性疾患実用化研究事業/原発性免疫不全症の診断率向上に向けたCD45陽性細
胞を用いたマルチオミックス解析の開発(AMED-広島大学)
- ・難治性疾患実用化研究事業/新生児マススクリーニング対策疾患等の遺伝学的診断
ネットワークと持続可能なレジストリを活用したリアルワールドエビデンス創出研
究「新生児マススクリーニング対策疾患等の遺伝子診断のための効率の良い遺伝子
パネルとその診断システムの改良とその運用」(AMED-大阪公立大学)
- ・難治性疾患実用化研究事業/21 水酸化酵素欠損症の新たな小児期先生医療を目指
した患者レジストリ構築、治療マーカーおよび簡便な遺伝学的検査法の確立(AM
ED-東京科学大学)
- ・肝炎等克服実用化研究事業・肝炎等克服緊急対策研究事業/肝線維化疾患に対する
マクロファージ療法の医師主導治験を目指した研究開発(AMED-北海道大学)
- ・新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進事業/包括的アプローチに基づ
く小児COVID-19関連多系統炎症性症候群の病態解析と臨床像の解明(AMED-広
島大学)
- ・難治性疾患実用化研究事業/ロングリードシーケンスを用いた先天性免疫異常症
診断(AMED-東京科学大学)
- ・成育医療研究開発費/先天性血小板減少症・異常症のQOLを改善するための新規診
断法開発とレジストリに基づく病態解明(国立成育医療研究センター)
- ・地域を支えるサトウキビ大規模栽培体系構築事業/無人航空機を利用した雑草及び
害虫被害を検出する基礎技術開発に係る研究委託業務(沖縄県農業研究センター)
- ・地域を支えるサトウキビ大規模栽培体系構築事業/サトウキビ育種事業の基盤強化
を進める新規育種素材および育種技術の開発(沖縄県農業研究センター)
- ・Hort Innovation Australia/Developing a rapid low-cost method for genotyping

by sequencing (University of Queensland)

- ・農林水産研究事業委託プロジェクト研究／品種識別技術の開発（農林水産省）
- ・イノベーション創出強化研究推進事業／持続的なサトウキビ生産を可能とする連続株出し多収品種と次世代型機械化一貫栽培技術の開発（農林水産省）
- ・ムーンショット型農林水産研究開発事業／サイバーフィジカルシステムを利用した作物強靱化による食料リスクゼロの実現-1（農林水産省）
- ・ムーンショット型農林水産研究開発事業／サイバーフィジカルシステムを利用した作物強靱化による食料リスクゼロの実現-2（農林水産省）
- ・イノベーション創出強化研究推進事業／日本ブランドを支える種子イチゴの安定生産技術確立～イチゴ生産者の経営と働き方改革の実現（農林水産省）
- ・農水委託事業・食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト／スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発（農林水産省）
- ・研究開発と socjety5.0 との橋渡しプログラムのうち農林水産省が実施する施策（BRIDGE）同時改変ゲノム編集技術を用いた産業植物の創出（農林水産省）
- ・農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究／炭素貯留能力に優れた造林樹種プロジェクト（農林水産省）
- ・医療奨励賞 2022ーがん領域ー／脂質代謝ー免疫システムを標的とした抗腫瘍戦略の基盤構築（MSD生命科学財団）
- ・第33回(2021年度)加藤記念研究助成／免疫エピゲノム編集による肺疾患をターゲットとした次世代型治療法の開発（加藤記念バイオサイエンス振興財団）
- ・東レ科学技術研究助成／脂質代謝を基軸とした抗ウイルス応答メカニズムの解明（東レ科学振興会）
- ・「新産業を生む科学技術」2021年度／安全で最適な肺疾患治療を実現する免疫エピゲノム編集技術の開発」（キヤノン財団）
- ・2022年度武田科学振興財団 ハイリスク新興感染症研究所性／「免疫ー脂質代謝ーウイルス」を基軸とした生体にとって一石二鳥となる抗ウイルス免疫応答の新規制御法開発（武田科学振興財団）
- ・2022年度武田科学振興財団ライフサイエンス研究継続助成／制御性 T 細胞分化をプログラムする脂質代謝地図の解読（武田科学振興財団）
- ・2023年度持田記念研究助成／脂質代謝を基盤とした二重の抗ウイルス応答メカニズムの解明と画期的創薬モダリティの創出（持田記念医学薬学振興財団）
- ・2023年度ステップアップ研究助成／肥満における免疫病原性バイアスの分子機構解明（アステラス病態代謝研究会）
- ・2023年度次世代育成支援研究助成金／脂質代謝を基軸とした抗ウイルス記憶 T 細胞クローンの意義解明（シオノギ感染研究振興財団）
- ・2023年度上原記念生命科学財団研究助成／リンパ球系譜において ROR γ t 多機能性を司る脂質代謝経路の解明（上原記念生命科学財団）
- ・2023年度学術研究奨励金自然科学部門研究助成／母乳の糖質プロファイルを決定

するホスポリパーゼ A2 と次世代への影響（三島開運記念財団）

- ・ 2023 年度研究助成（新たな海洋の生物種や生態、その機能の発見）／Holistic Genomic Approach to Asia-Pacific Marine Diversity（笹川平和財団海洋制作研究所）
- ・ 2024 年度研究助成／環境DNA解析を利用した産卵期以外のトウキョウサンショウウオの生息調査方法の検討（公益財団法人中辻創智社）
- ・ 2023 年度小野薬品がん・免疫・神経研究財団研究助成／精密脂質免疫学から実現する Th17 疾患の克服（公益財団法人小野薬品がん・免疫・神経研究財団）
- ・ 2024 年度ヤンマー資源循環支援機構助成事業／病気の農作物が放出する特異的なニオイを指標とした新規病害診断技術の開発（一般社団法人ヤンマー資源循環支援機構助成事業）
- ・ 2024 年度化血研ステップアップ研究助成／脂質代謝を基軸とした次世代ウイルスシステムの PoC 確立（一般財団法人化学吸血清療法研究所）
- ・ 2024 年度上原記念生命科学財団研究助成／免疫－脂質代謝－ウイルスを基軸とした生体にとって一石二鳥となる抗ウイルス免疫応答の新規制御法開発（公益財団法人上原記念生命科学財団）

ウ 賛助会費の確保

企業・団体等に対し、法人設立趣旨や公共性の高い研究活動への理解を求めるとともに、新規加入の促進に努めた。

（２）持続可能な運営体制の構築

ア 計画的な職員採用と適正配置

安定かつ持続的な運営を持続するため、正規職員（研究職・技術職・事務職）の計画的な採用に努め、重点事業や公益事業の拡大等による業務量の増減も踏まえながら、経験や実績を重視した人員配置を行った。

イ 人事評価制度及び給与制度の適正な運用

人事評価制度と給与制度を適正に運用し、研究実績及び勤務実績などを給与に反映させ、職員のモチベーションの向上を図った。

ウ 職員の人材育成と事務処理能力の向上

正規職員を中心とする自立型経営を推進するため、OJTに積極的に取り組んだ。多様化、複雑化する事務に対応するため、事務職員の法令等に関する知識・事務処理スキルの向上を目指して、既存のスキルアップ制度を強化するとともに担当業務に関連する各種講習の受講や資格の取得を促した。

エ かずさDNA研究所研究評価委員会の活用

社会の要請、時代の変化等に対応した高度かつ効率的・効果的な研究の推進に対応するため、外部の有識者から構成される研究評価委員会で得た助言を適正な運用に取り組んだ。

オ 適正な予算管理と経費の節減

年度当初に各部に配賦した予算の執行状況を適時確認するとともに、職員への関係規程等の順守を徹底し、内部統制機能の強化に努めた。

カ 契約事務の適正な執行

限られた予算を効率的に活用するため、競争入札の原則を遵守し、一層の経費節減に努めた。

キ 効率的な機器等の調達及び管理

共有できる機器等について他部署と重複して購入することのないよう機器の購入計画を作成して情報の共有を図った。

ク 計画的な施設設備の改修・更新

研究所開所以来約30年が経過し、施設設備の老朽化が著しく進んでいることから、県と協議を進め、事業機能維持と安全性確保を前提に優先順位を見極め、計画的かつ効率的な改修・更新が進められるよう努めた。

また、非常用電源の増強等による停電時の電源維持強化について早期に検討の上、対応していくとともに、アフターコロナを見据え、外部研究者との交流促進や、宿泊型の理科教育支援の充実を図るため、宿泊棟の計画的な施設整備に取り組んだ。

更に、県と共同して、空室となっている共同研究フロアーの入居者の確保に努め、施設の有効活用を図った。

ケ 事務の効率化とデジタル化の推進

事業の拡大による事務の増加と多様化に対応するため、人事財務システムを活用して事務効率の向上に努めた。

5 庶務的事項

(1) 役員等の状況

令和7年3月31日現在の役員等の状況は理事10名、監事3名、評議員15名となっている。

(2) 職員の状況

令和7年3月31日現在のかずさDNA研究所の組織は別表のとおりであり、職員の状況は、研究員40名、技術員62名、事務職員26名、補助職員等26名、合計で154名となっている。

(3) 理事会・評議員会の運営状況

- ・令和6年5月17日（金）（書面表決）理事会
議案1 新評議員2名の選任に係る評議員の提案について
- ・令和6年5月30日（木）（書面表決）評議員会

- 議案1 新評議員2名の選任について
- ・令和6年6月6日（木）第38回理事会
場所 ステーションコンファレンス東京
開催方式 会場と理事及び監事個人宅との間でオンライン開催
第1号議案 令和5年度事業報告及び収支決算について
第2号議案 評議員会の招集について
 - ・令和6年6月24日（月）第24回評議員会
場所 ステーションコンファレンス東京
開催方式 会場と評議員宅との間でオンライン開催
議案1 令和5年度事業報告及び収支決算について
議案2 評議員の選任について
議案3 理事の選任について
 - ・令和6年6月24日（月）第39回理事会
場所 ステーションコンファレンス東京
開催方式 会場と理事及び監事個人宅との間でオンライン開催
議案1 理事長、副理事長、専務理事の互選について
議案2 役員報酬額の決定について
 - ・令和6年7月31日（水）（書面表決） 理事会
議案1 新監事1名の選任に係る評議員への提案について
 - ・令和6年8月26日（月）（書面表決） 評議員会
議案1 新監事1名の選任について
 - ・令和7年2月7日（金）（書面表決） 理事会
議案1 評議員会の招集について
 - ・令和7年3月19日（水）第40回理事会
場所 ステーションコンファレンス東京
開催方式 会場と理事の個人宅等との間でオンライン開催
第1号議案 令和6年度収支補正予算について
第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算について
第3号議案 株式会社かずさゲノムテクノロジーズとの取引について
第4号議案 役員賠償責任保険契約締結について
第5号議案 理事の選任に係る評議員会への提案について
 - ・令和7年3月19日（水）第25回評議員会
場所 ステーションコンファレンス東京
開催方式 会場と評議員個人宅等との間でオンライン開催
第1号議案 令和6年度収支補正予算について
第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算について
第3号議案 理事の選任について

（4）監査の状況

令和7年5月30日（金）当財団の監事による令和6年度事業報告及び収支決算について監査が行われた。

(5) 運営委員会の開催

研究所の研究活動を円滑に推進することを目的として、毎月所内運営委員会を開催し、採用職員の選考や各種規程の制定など研究所運営に関する必要な事項を審議した。

公益財団法人かずさDNA研究所役員名簿

(令和7年6月1日現在)

役員名	氏 名	所 属 役 職 等
理 事 長	大 石 道 夫	国立大学法人東京大学 名誉教授
副 理 事 長	田 畑 哲 之	公益財団法人かずさDNA研究所 所長
専 務 理 事	井 上 宣 之	公益財団法人かずさDNA研究所 事務局長
常 務 理 事	小 原 收	公益財団法人かずさDNA研究所 副所長
理 事	篠 崎 一 雄	国立研究開発法人理化学研究所 栄誉研究員・名誉研究員
理 事	宮 島 篤	国立大学法人東京大学定量生命科学研究所 特任教授
理 事	高 木 利 久	富山国際大学 学長
理 事	佐 藤 和 広	摂南大学農学部農業生産学科 特任教授
理 事	富 沢 昇	公益財団法人千葉県産業振興センター 理事長
理 事	関 雄 二	千葉県商工労働部長
	計 1 0 名	
監 事	白 井 克 己	株式会社千葉興業銀行 取締役専務執行役員
監 事	喜 多 見 貴	株式会社京葉銀行 執行役員 法人営業部長
監 事	齋 藤 久 晃	公認会計士・税理士
	計 3 名	

公益財団法人かずさDNA研究所評議員名簿

(令和7年6月1日現在)

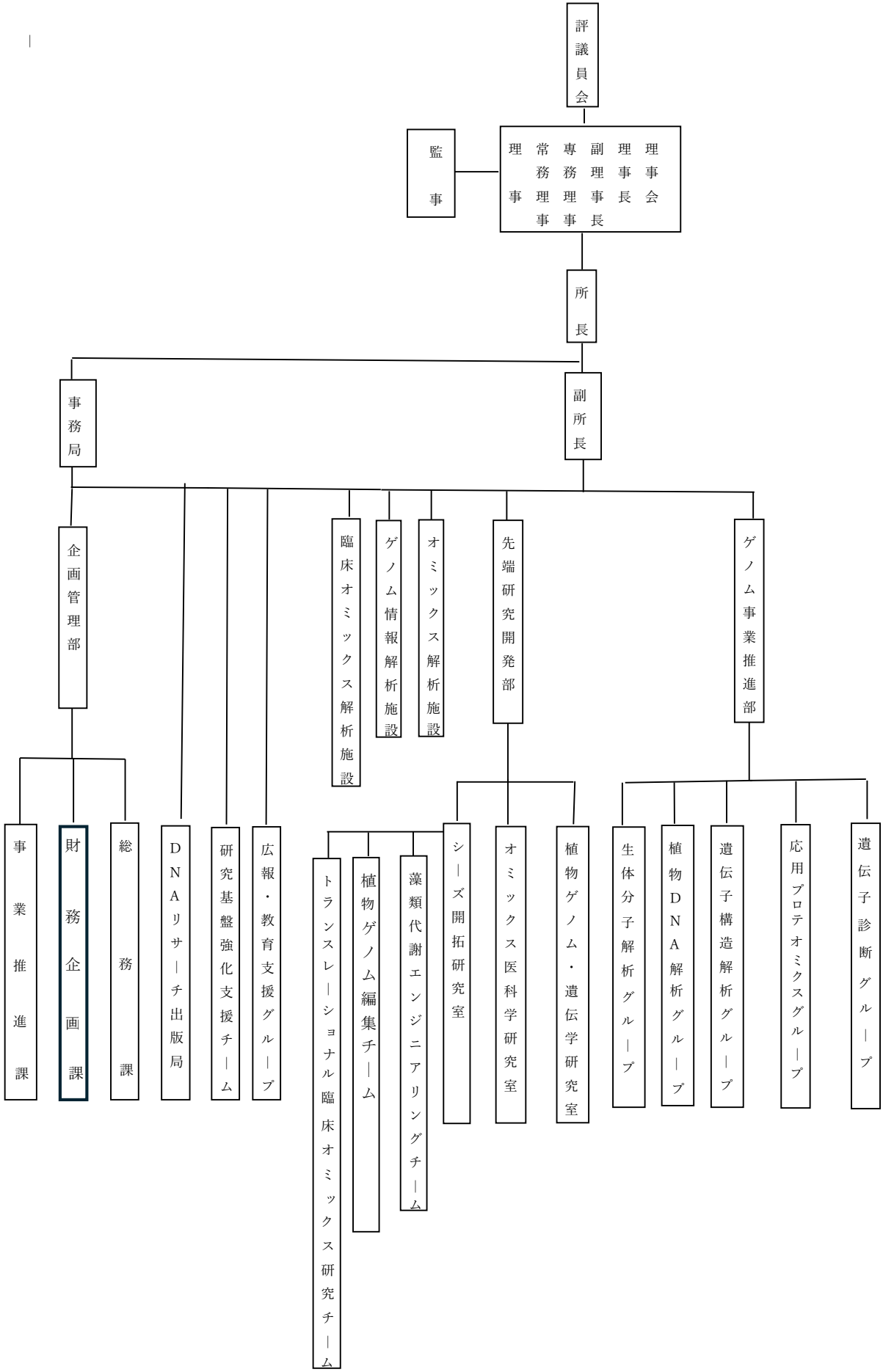
役員名	氏 名	所 属 役 職 等
評 議 員	関 谷 剛 男	元国立がんセンター研究所 部長
評 議 員	田 中 幸 子	木更津市副市長
評 議 員	荒 井 淳 一	君津市副市長
評 議 員	阿 久 津 和 司	千葉県産業支援技術研究所 所長
評 議 員	野 村 徳 明	千葉県農林総合研究センター センター長
評 議 員	加 藤 厚	千葉県病院局がんセンター 病院長
評 議 員	花 岡 文 雄	国立大学法人大阪大学 名誉教授
評 議 員	松 原 謙 一	国立大学法人大阪大学 名誉教授
評 議 員	齊 藤 和 季	国立研究開発法人理化学研究所 領域総括 環境資源科学研究センター 特別顧問
評 議 員	岡 田 清 孝	国立大学法人京都大学・基礎生物学研究所 ・総合研究大学院大学 名誉教授
評 議 員	中 谷 晴 昭	国立大学法人千葉大学 理事・副学長
評 議 員	小 高 信 和	株式会社千葉銀行 常務執行役員
評 議 員	石 津 廣 司	全国市長会顧問弁護士
評 議 員	塚 本 芳 昭	一般財団法人バイオインダストリー協会 専務理事
評 議 員	黒 野 嘉 之	千葉県副知事
	計 1 5 名	

公益財団法人かずさDNA研究所特別顧問名簿

(令和7年6月1日現在)

役員名	氏 名	所 属 役 職 等
特別顧問	熊谷 俊人	千葉県知事
	計 1 名	

公益財団法人かずさDNA研究所組織図 (令和7年3月31日現在)



附 属 明 細 書

令和6年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年6月

公益財団法人かずさDNA研究所